



三角小だより

10月号

ふじみ野市立三角小学校
令和7年10月1日

【学校教育目標】

ゆめのある子

- ・かしこい子
- ・やさしい子
- ・たくましい子

(知)
(徳)
(体)



「きく」力を身につける

校長 湯本 貴幸

猛暑の始業式から約1か月が過ぎ、年度の折り返しとなる10月となりました。10月と言えば、「秋」を思い浮かべる方も多いと思います。日本には古くから「春夏秋冬」という四季があり、季節の移ろいを大切にしてきた文化があります。しかし、近年は私的な感覚ではありますが、春秋物の服装になった回数も少なくなり、心地よいと感じる季節が短くなったような気がします。四季の変化を感じにくくなった今だからこそ、受け身ではなく、わずかな変化を見落とさないよう、積極的に季節を見つける感性を磨いていく必要があります。これから迎える「秋」は子供たちと紅葉を観に行ったり、秋の食材を楽しんだりする機会をあえて作るようにしてみてもいいでしょうか。

さて、子供たちの学習の様子を見てみると、落ち着いて取り組んではいらぬものの、教師の発問(問い)に対して正対していない答えを言う子を見かけます。教師が繰り返し言ったり、補足したりするとすぐに言い直すことができる場所を見ると、それは答えがわからないのではなく、話を最後までよく聞き取っていないことが原因と考えられます。同じようなこととして、放送で「今日は雨のため静かに教室で過ごしましょう」と伝えることがあります。ところが、耳には「聞こえている」ものの、「聴いていない」ために、友達とふざけあって放送直後にけがをしまう子がいます。

日本語の「きく」という言葉には、いくつか種類があり、そのうちの「話をきく」に関連したものには3つの漢字があります。

「聞く」ただ耳に音や言葉が入ってくること。

「聴く」心を向けて、相手の思いまで受けとめること。

「訊く」分からないことを自分から質問すること。

本校の子供たちは「静かに聞く」はできています。人が集まるところでは本当に素晴らしい態度です。したがって、三角小の子供たちにとって大切なのは、ただ「聞く」ことからさらに一歩進んで、「聴く」の姿勢を身につけることではないかと考えます。そして、「聴く」をとおして、分からないことや確かめたいことがあれば、自分から「訊く」ということまでつなげていきたいです。

本校の「学びの10カ条」には、9の項目に「聞こえる声で発表し、人の話は目を見て最後まで聞きます」とありますが、「最後まで聴きます」としてこれからは意識させていきたいと思っています。

世界の情報はパソコンやスマホで簡単に知ることができ、買い物に行ってもバーコードをスキャンして支払いを済ませて終了します。確かに便利な世の中ですが、人から聴いて学ぶことや、人から訊いて知ることなど、コミュニケーション的な活動が少なくなっているのも事実です。冒頭の季節の話ではありませんが、こんな時代だからこそ、学校では「聴く」から「訊く」につなげられる態度を身につけさせたいと思います。ご家庭でも、日常の会話の中で「しっかり聴けたか」「分からないことを訊けたか」を振り返る習慣をもっていただくと、子供たちの力がより確かに育っていくと思います。